

船舶事故等調査報告書

平成24年1月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

|             |   |   |
|-------------|---|---|
| 事故等番号       | 2011門第130号  |   |
| 事故等種類       | 運航阻害  |   |
| 発生日時        | 平成23年8月31日（水） 09時10分ごろ  |   |
| 発生場所        | 福岡県福岡市博多港<br>福岡市所在の能古島灯台から真方位050° 1,570m付近<br>(概位 北緯33° 38.8′ 東経130° 19.0′)   |   |
| 事故等調査の経過    | 平成23年9月14日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。<br>原因関係者から意見聴取を行った。  |   |
| 事実情報        |   |   |
| 船種船名、総トン数   | 旅客船 ニューげんかい、105トン   |   |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 135405、福岡県福岡市   |   |
| 乗組員等に関する情報  | 機関長、三級海技士（機関）   |   |
| 死傷者等        | なし  |   |
| 損傷          | 左舷主機冷却清水出口集合管ゴム継手部シール材破損  |   |
| 事故等の経過      | <p>本船は、船長、機関長ほか1人が乗り組み、旅客13人を乗せ、博多港を福岡市玄界漁港に向けて航行中、平成23年8月31日09時10分ごろ左舷主機の冷却清水圧力低下警報装置が鳴った。</p> <p>機関長は、機関室を点検して左舷主機の2分割構造の冷却清水出口集合管（以下「清水集合管」という。）の分割部分のゴム継手（以下「ゴム継手」という。）部から冷却清水が噴出しているのを認め、直ちに左舷主機を停止した。</p> <p>本船は、右舷主機のみで航行を続け、定刻より約15分遅れで玄界漁港に入港した。</p> <p>本船は、本インシデント後、左舷主機の清水集合管のゴム継手を交換した。</p> |   |
| 気象・海象       | <p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 5、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1.0m</p>  |   |
| その他の事項      | <p>両舷主機の冷却清水圧力は、通常220kPaであった。</p> <p>両舷主機の冷却清水圧力低下警報の設定値は、110kPaであった。</p> <p>ゴム継手は、清水冷却管の分割部分に鋼製ねじ締め式クランプによって取り付けられていたが、片方のクランプが斜めに締め付けられ、同クランプの縁がゴム継手の破損箇所に食い込んでいた。</p>  |   |
| 分析          | 乗組員等の関与<br>船体・機関等の関与<br>気象・海象の関与<br>判明した事項の解析   | <p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、博多港を航行中、左舷主機の清水集合管のゴム継手が破損したことから、冷却清水が漏えいし、同主機が運転できなくなったものと考えられる。</p> <p>左舷主機の清水集合管は、ゴム継手のクランプの縁の一部がゴム継手に食い込んだ状態で締め付</p> |

|    |   |
|----|---|
|    | けられていたことから、左舷主機の運転中に振動を受け続け、ゴム継手が破損した可能性があると考えられる。                                    |
| 原因 | 本インシデントは、本船が、博多港を航行中、左舷主機の清水集合管のゴム継手が破損したため、冷却清水が漏えいし、同主機が運転できなくなったことにより発生したものと考えられる。 |